

自然と暮らしを科学でつなぐ。

YASUHARACHEMICAL 





松とオレンジからとれる天然素材
〈テルペン〉の話をしましょう。



「テルペン」という言葉を聞いたことがありますか。

テルペンは植物の体内で作られる物質で自然界に広く存在し、
まつやに松脂などから採れる植物の精油に多く含まれます。その代表的な成分の α -ピネンは、
人に森林浴効果をもたらし、植物を外敵から守るための大切な物質、
フィトンチッドのひとつと考えられています。

針葉樹の傷口から流れ出る樹液にももちろんテルペンが含まれます。
この樹液はターペンタインと呼ばれ、古代エジプトではこれを蒸留して
テレピン油(ターペンタインの揮発性成分)を得ていたと伝えられています。
テレピン油は、古くから美容のための香油、殺菌剤、塗装や絵画のラッカーとして
使用されてきました。
19世紀中頃にはテレピン油の工業生産がはじまり、用途が急速に拡大していきました。
その後テレピン油の用途は、塗料用溶剤や医農薬、合成樟脳^{しょうのう}などの原料として
発展してきましたが、近年は洗浄剤、テルペン樹脂、香料、ビタミン、殺虫剤などの
合成原料へと変わってきています。

現在、私たち人類が工業原料として安定的に、しかも大量に集められるテルペンは、
松の木^{*}に含まれるテレピン油の他、オレンジ^{*}の皮に含まれるオレンジオイルです。
テレピン油とオレンジオイルは、将来の枯渇^{こかつ}が心配される石油資源とは異なり、
植物が太陽の恵みをもとに繰り返し作り出すことができる再生可能な貴重な資源、
自然からの贈り物です。

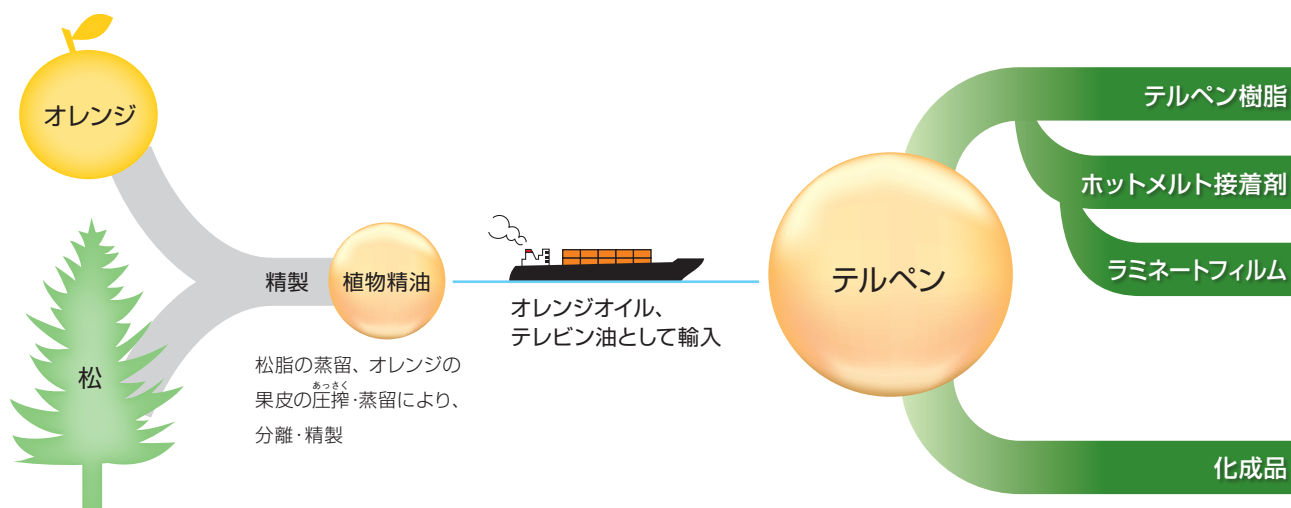


※採取現場では計画的な伐採・植林などにより、樹木が枯渇することのないよう、人の手をかけて守られています。

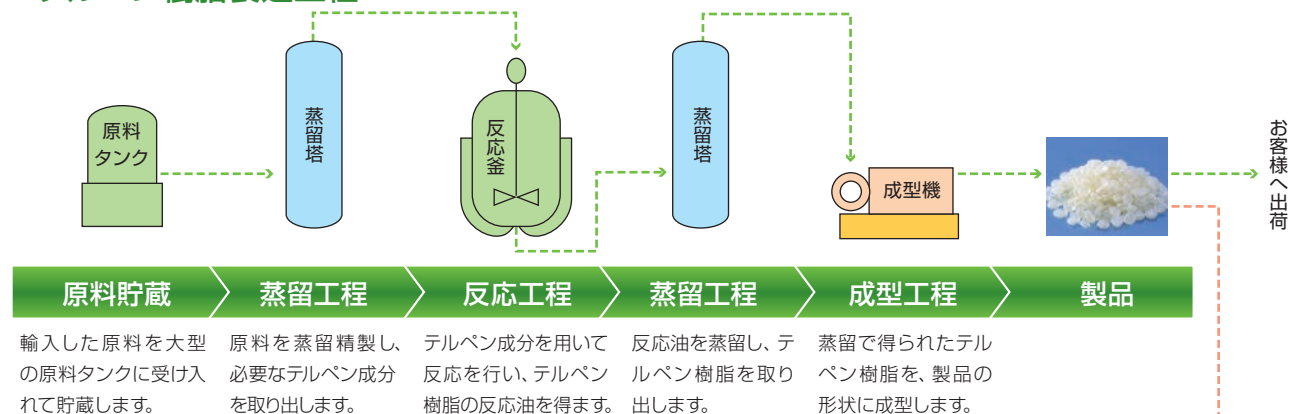


植物の恵み〈テルペン〉は、 科学の力で、さまざまな製品に 生まれ変わります。

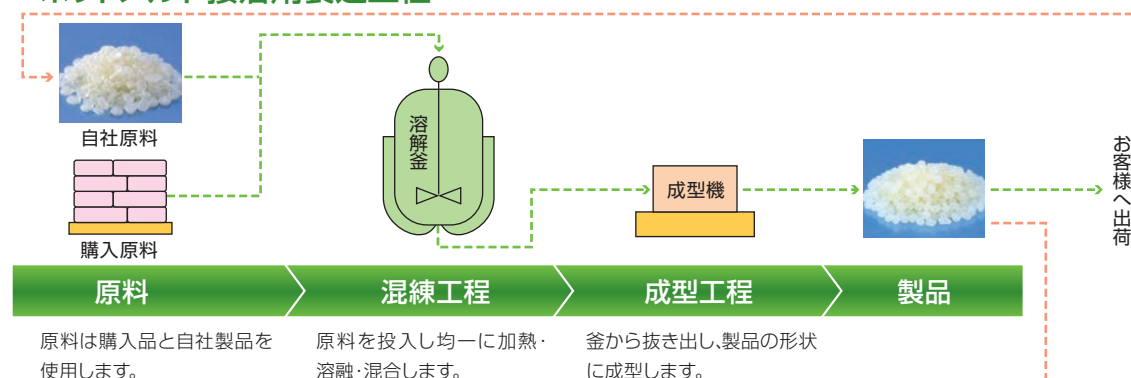
テレピン油は松脂や松のチップなどから得られ、採取する方法によって、
ガムテレピン油、サルフェートテレピン油、ウッドテレピン油に分類されます。
オレンジオイルは、ジュース搾汁工程の副産物として得られます。
当社では、これらテレピン油やオレンジオイルを海外からタンカーで輸入し、
国内工場のタンクに貯蔵します。入荷したオイルは工場内で蒸留精製され、
各種テルペン成分に分離精製されます。分離されたテルペン成分は、
テルペン樹脂や化成品などの製品となり、それらの一部はホットメルト接着剤に、
そしてホットメルト接着剤の一部はラミネートフィルムに加工されます。



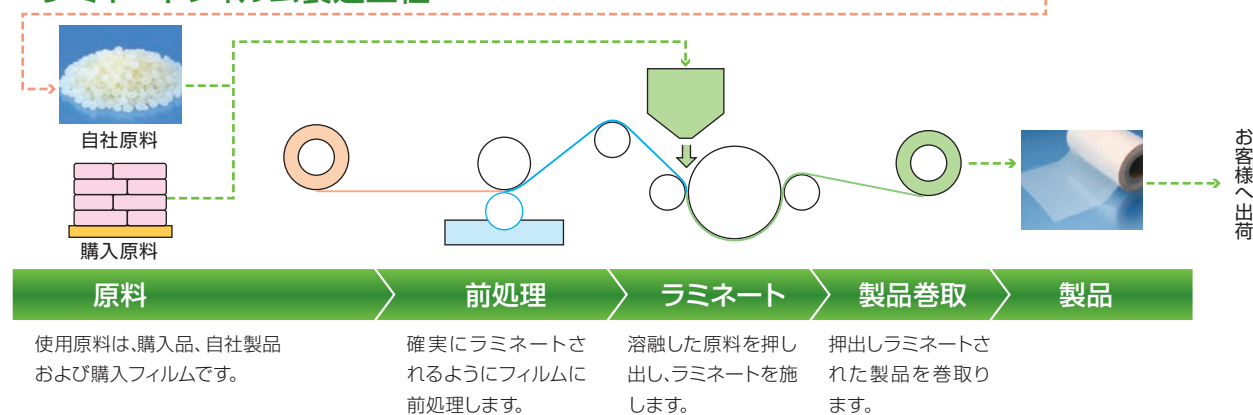
▼テルペン樹脂製造工程



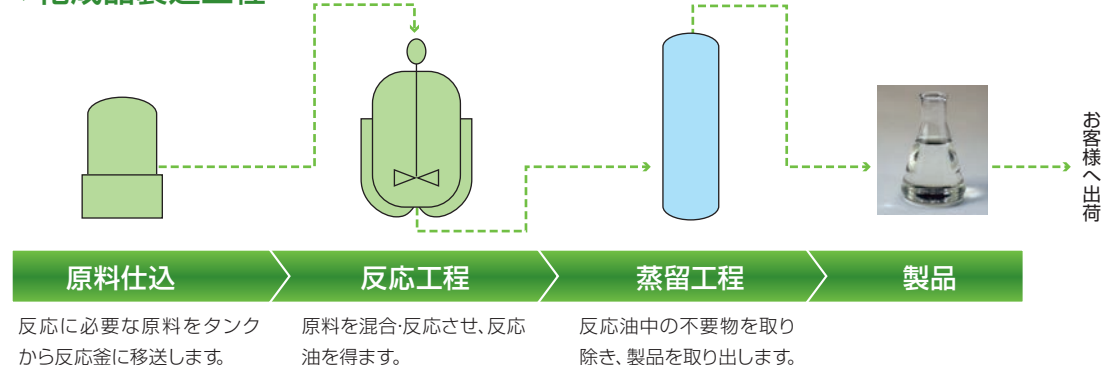
▼ホットメルト接着剤製造工程



▼ラミネートフィルム製造工程



▼化成品製造工程





ヤスハラケミカル製品の
いろいろな用途

こんなところにも、
ヤスハラケミカルが。
暮らしのあちこち、目にみえない
ところで活躍しています。

接着剤

たとえば自動車、紙おむつ、本、洗剤など。ふだんにげなく使われているもののなかには、ヤスハラケミカルの製品が活用されているものがたくさんあります。

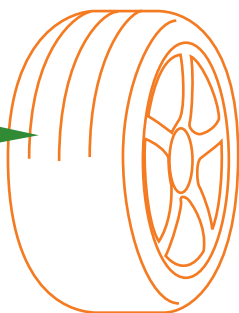
ヤスハラケミカルの製品は、粘着・接着剤、ゴム・プラスチックの改質剤、香料原料、洗浄剤、電子材料、医農薬原料などあらゆる分野の製品に応用され、社会の基盤や暮らしを支えています。

さらに今後テルペンは、環境・エネルギー関連分野、情報技術関連分野およびライフサイエンス分野への応用が期待されています。私たちはこれまでに培ってきた基盤技術を発展させ、これら新しい分野への応用に積極的に取り組み、テルペンの可能性を未来へとつなげていきます。

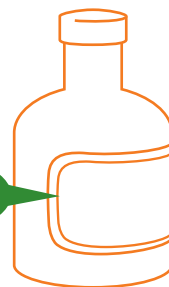
カップ麺のふた材など

飲料缶シーリング

タイヤ



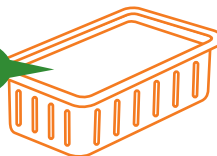
粘着ラベル



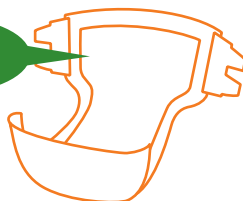
携帯電話



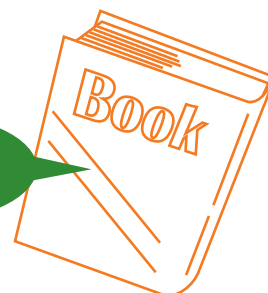
食品容器



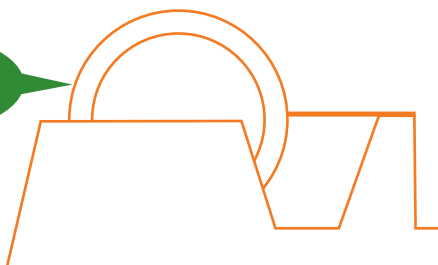
紙おむつ



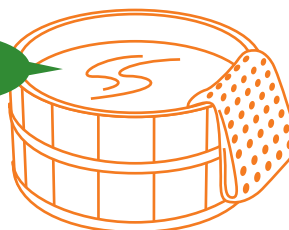
書籍などの
光沢ラミネート



セロハンテープ
塩ビテープ



入浴剤



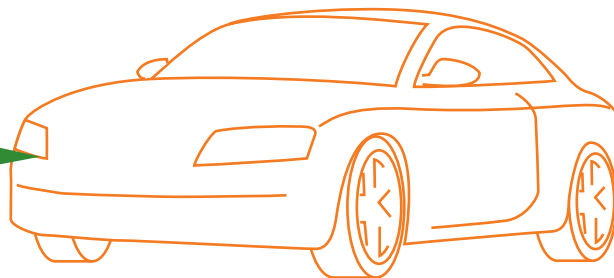
せっけん・洗剤



香料・芳香剤



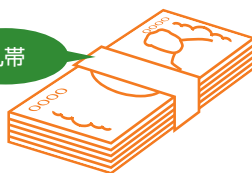
ヘッドライトその他の
シーリング剤



フラットケーブル



札帯



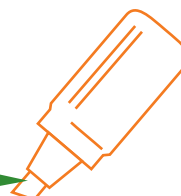
飲料包装用



道路のペイント



油性ペンのインク

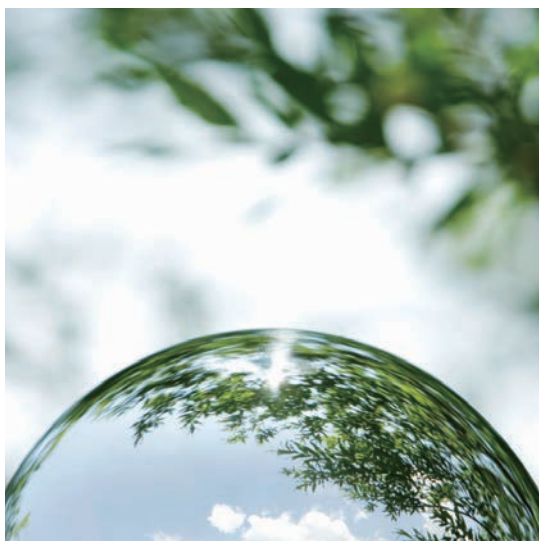




環境や地域への貢献

自然と手を取りあうこと。
地域と手をたずさえること。
それが、私たちの原点です。

自然の恵みテルペンを原材料に、環境を守りながら持続可能な未来をめざし、
人と自然が共生し、地域と手をたずさえ、共に発展していくことが、
私たちヤスハラケミカルの変わらぬ姿勢です。

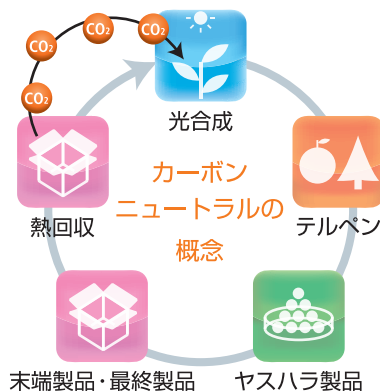


環境負荷の低減のために、 今、私たちにできることを常に考えています。

環境負荷の低減は、事業活動の持続的発展に不可欠なものと考えています。そのために環境マネジメントシステムを策定し、省エネルギー、地球温暖化防止、産業廃棄物削減などに全社一丸となって取り組んでいます。

カーボンニュートラル

排出される二酸化炭素と、吸収される二酸化炭素が同じ量であることをカーボンニュートラルといいます。植物は光合成によって二酸化炭素を吸収するので、植物由来のテルペンを原材料とする私たちの生産活動は、カーボンニュートラルそのものといえます。



バイオマス

カーボンニュートラルを実現させる資源として、植物など生物由来燃料であるバイオマスが注目されています。化石燃料などの枯渇性資源の代わりにバイオマスエネルギーを利用することで、私たちは地球温暖化防止、循環型社会の構築に努めています。

積極的な安全対策・防災活動を推進しています。



化学企業として事故を起こさないことを大前提に、日々、安全対策に最大限の努力をはらっています。また、万が一の緊急事態に備え、火災だけでなく、海域への油流出、入槽作業者の救出、有毒性ガス漏出など、あらゆる状況を想定した防災訓練を定期的実施しています。訓練の後には、訓練方法や体制の見直しなどについて活発な意見交換をし継続的改善につなげています。



地域と共にあることをめざし、 多彩な交流や活動を続けています。

各事業所における定期的な地域の清掃活動などを行い、地域住民の皆様のご理解に対する感謝の活動を続けています。また、地域の皆様とのふれあいを大切に、スポーツ振興にも力を注いでいます。



地域清掃



地域スポーツへの貢献



世界を舞台に活躍しています。

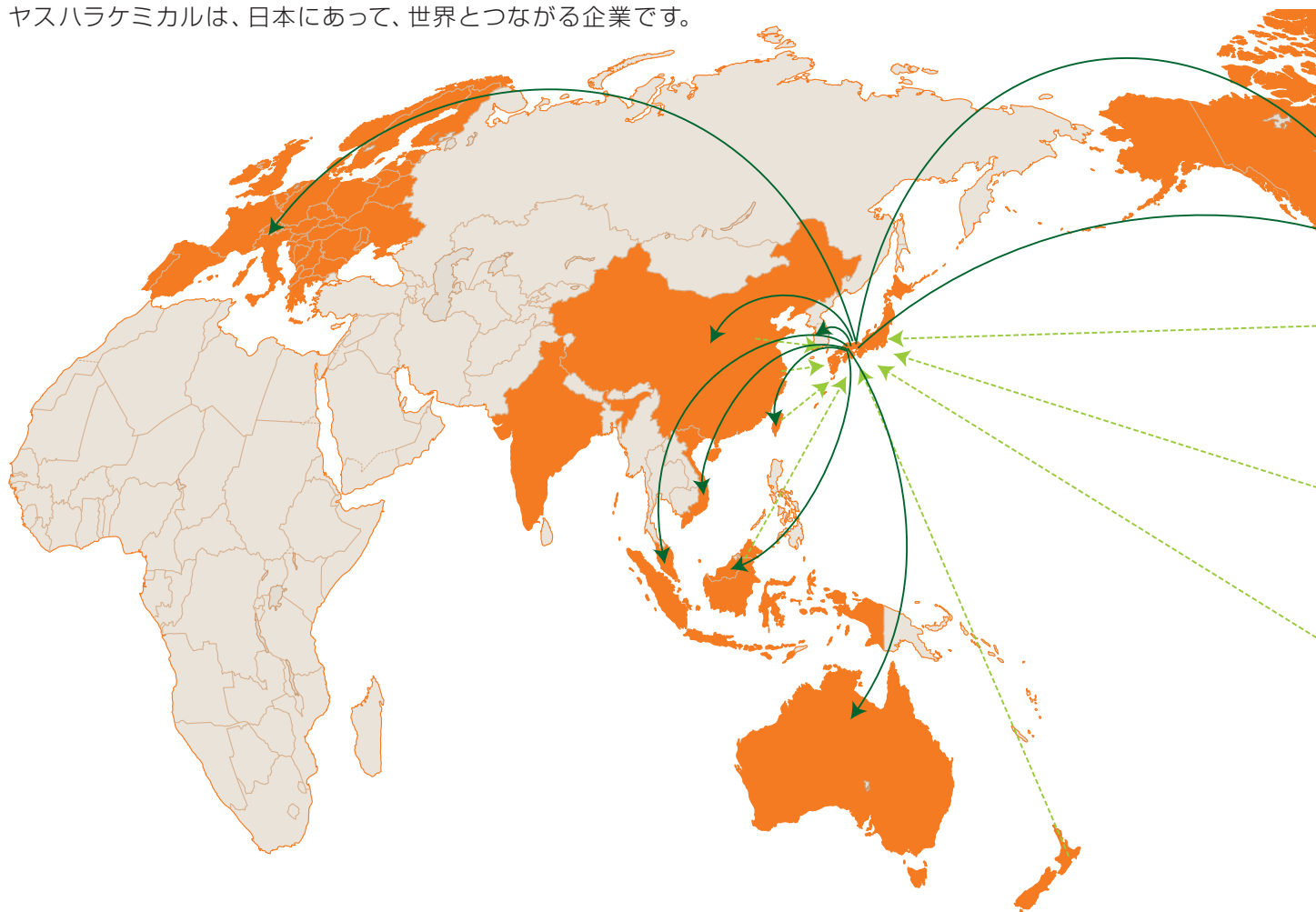
テレピン油やオレンジオイルをはじめとする原料は、中国・南米などから輸入。

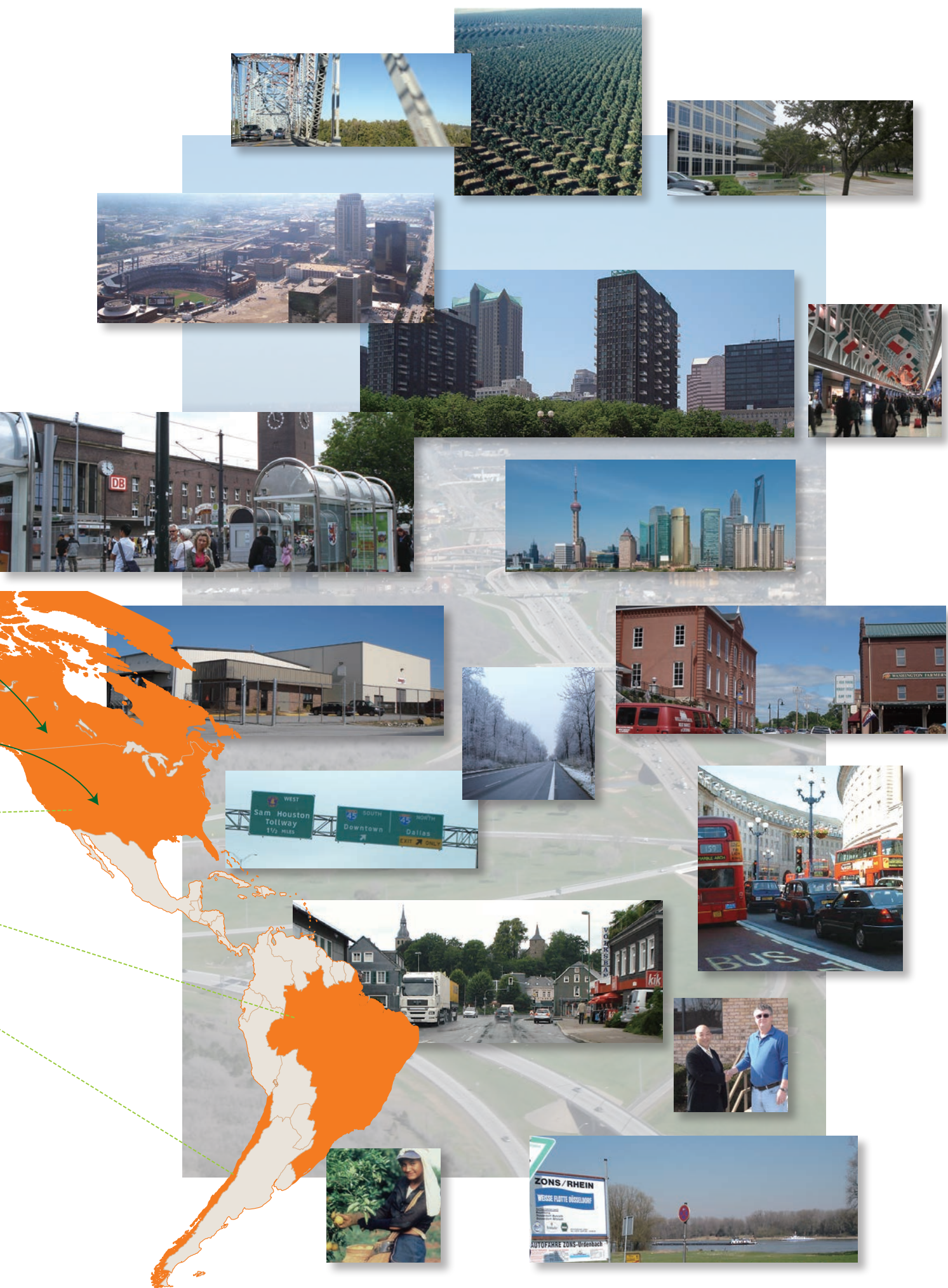
それらを付加価値の高い製品へと加工し、国内はもとより広く世界へ送り出しています。

高い技術力から生まれる製品は、海外でも高い評価を得ています。

グローバル化は国内産業の空洞化を招くと危惧されがちですが、私たちは生産拠点を国内に置くことで高い品質を保証しながら世界と取引をしています。

ヤスハラケミカルは、日本にあって、世界とつながる企業です。







世界での活躍を支え、 高い信頼を築いている 営業・研究・工場ネットワーク。

私たちの製品開発は、まず、相手先企業の製品を理解し、価値観を共有することから始まります。
既製品を一方向的に提供するのではなく、真に求められる付加価値の高い製品を
研究開発し、提供していく——そうした営業・研究・工場が三位一体となったネットワークが、
高い信頼を築き、国内外での活躍を支えています。



■ 本社

〒726-0013
広島県府中市高木町1071番地
Tel.0847-45-3530
Fax.0847-45-8639



■ 研究所

〒721-0956
広島県福山市箕沖町117番
(福山工場内)
Tel.084-957-5462
Fax.084-957-5463



■ 鶴飼工場

〒726-0002
広島県府中市鶴飼町800番111
Tel.0847-40-1501
Fax.0847-40-1502



■ 福山工場

〒721-0956
広島県福山市箕沖町117番
Tel.084-957-5458
Fax.084-981-1411



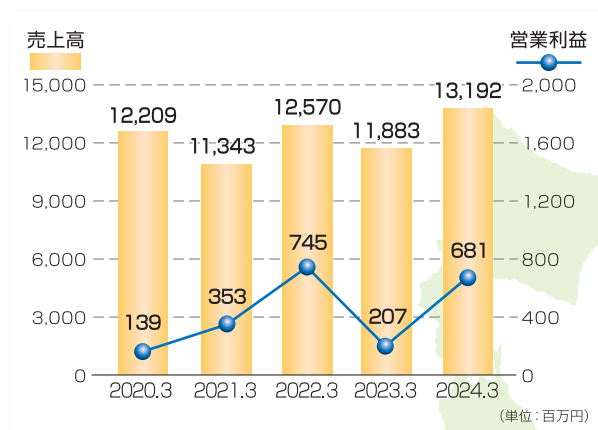
■ 新居浜工場

〒792-0892
愛媛県新居浜市黒島一丁目7番7号
Tel.0897-46-3062
Fax.0897-45-0741

- 商 号 ヤスハラケミカル株式会社
YASUHARA CHEMICAL CO., LTD.
- 創 業 1947年(昭和22年)4月
- 設 立 1959年(昭和34年)2月24日
- 代表者 代表取締役社長 安原 禎二
- 資本金 17億8,956万円
- 主な事業内容

[テルペン化学製品] ・テルペン樹脂
テルペン系樹脂
・化成品
合成香料原料、テルペン溶剤、ワックス
[機能性コンパウンド] ・ホットメルト接着剤
ホットメルト接着剤
・ラミネートフィルム
光沢ラミネートフィルム

- 従業員数 230名(2024年3月末)
- URL <https://www.yschem.co.jp/>



■ 東京事務所

〒104-0031
東京都中央区京橋一丁目6番1号
三井住友海上テブコビル5階

営業部
Tel.03-5159-3411
Fax.03-5159-3422

購買部
Tel.03-5159-3870
Fax.03-5159-3880



- 1946年(昭和21年) 創業者 安原 弘 松根油製造と出会う
- 1947年(昭和22年) 安原油脂工業所 創業 (広島県甲奴郡甲奴町 現:三次市)
テルペン、ロジン、パインタールの生産開始
- 1949年(昭和24年) 目崎工場 新設 (テレピン油精製工場)
- 1959年(昭和34年) 安原油脂工業株式会社 設立 (本社 広島県府中市目崎町)
- 1960年(昭和35年) 川内工場 新設 (製紙用サイズ剤工場)
- 1961年(昭和36年) 高木工場 新設 (テレピン油精製工場)
- 1962年(昭和37年) 東京出張所(現:東京事務所) 開設
- 1966年(昭和41年) 目崎工場 ホットメルト接着剤「ヒロダイン」生産開始
＜関連会社 ヒロダイン工業＞ ヒロダイン工業株式会社を設立し、
安原油脂工業よりホットメルト接着剤事業を移管
- 1967年(昭和42年) 本社を広島県府中市高木町に移転
- 1969年(昭和44年) 大阪営業所 開設
- 1970年(昭和45年) 高木工場 ネオワックス(低分子量ポリエチレンワックス)の生産開始
- 1972年(昭和47年) 高木工場に研究所設置
- 1977年(昭和52年) ＜関連会社 ワイエス＞ ワイエス株式会社 設立(安原油脂工業および
ヒロダイン工業の商事部門)
- 1980年(昭和55年) ＜関連会社 ワイエス＞ ヒロダイン株式会社に社名改称
- 1981年(昭和56年) ＜関連会社 ヒロダイン工業＞ 総領工場 新設(ホットメルト接着剤製造工場)
- 1984年(昭和59年) 新居浜工場 新設 (テルペン樹脂製造工場)
- 1988年(昭和63年) 川内工場を鹿児島県川内市港町に移転
- 1989年(平成元年) ヤスハラケミカル株式会社に社名改称
- 1995年(平成7年) 広島証券取引所に上場 (2000年東京証券取引所と合併)
- 1996年(平成8年) 大阪証券取引所第二部に上場 (2003年上場廃止)
- 1997年(平成9年) ヒロダイン工業株式会社を吸収合併
- 1999年(平成11年) 鶴飼工場 新設 (ホットメルト接着剤・ラミネートフィルム製造工場)
- 2000年(平成12年) 東京証券取引所第二部に上場
- 2005年(平成17年) ヒロダイン株式会社を吸収合併
- 2007年(平成19年) 福山工場 新設 (特殊モノマー製造工場)
- 2008年(平成20年) 目崎工場 閉鎖
- 2010年(平成22年) 研究所を福山工場へ新設
- 2014年(平成26年) 福山工場 技術棟・厚生棟 完成
- 2016年(平成28年) 東京事務所を東京都中央区に移転
- 2017年(平成29年) 福山工場に高木工場を統合し、高木工場を福山工場高木作業所に改称
- 2018年(平成30年) 川内工場 閉鎖
大阪事務所を大阪市淀川区宮原に移転
- 2020年(令和2年) 福山工場高木作業所 閉鎖
- 2022年(令和4年) 東京証券取引所スタンダード市場へ移行
- 2023年(令和5年) 東京事務所に大阪事務所を統合
鶴飼工場に総領工場を統合

これまでの先に



自然の恵みと科学技術を融合させ、
持続可能な暮らしの実現に貢献します。

20世紀の人類は、経済成長こそが豊かな暮らしを実現すると信じ、大量生産・大量消費社会を築いてきました。しかしそれは深刻な環境問題を招くこととなり、石油などの枯渇燃料に頼った繁栄はエネルギー問題に直面しています。20世紀型社会が行き詰っていることは、誰もが気付いていることです。

ヤスハラケミカルは、大量消費がもてはやされた時代から、天然素材のテレピン油、オレンジオイルを主原料とするテルペン化学の可能性を追求し、安全で高品質な製品を開発してまいりました。

実質的に再生が不可能な石油と違い、植物由来のテルペンは短期サイクルでリニューアブルな素材であり、絶えず再生を繰り返しています。次代に求められているのは、そんな永続的(サステナブル)な社会です。自然と人とが共生し豊かな暮らしを営んでいけるよう、そして自然サイクルと皆様の生活とを結ぶ一翼を担っていけるよう、これからもテルペンのさらなる可能性を追求し続けてまいります。

代表取締役社長 安原 稔二

これからがある。

ヤスハラケミカル株式会社

〒726-0013 広島県府中市高木町1071番地 TEL:0847-45-3530 FAX:0847-45-8639

<https://www.yschem.co.jp/>

